

授 業 概 要

(こども保育科)

授業タイトル (科目名) こどもの心理学	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 鈴木 崇弘	当該科目に関する実務経験 臨床心理士 学校カウンセラー
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] こどもという存在を深く理解するために、そもそもこどもとは何を指すかを多方面からまず考え、さらに、人間とは何かという根本的な問い掛けを行う。こどものあり方とこどもの育ちへの支援のあり方を基本からとらえ直すことを目的とする。 [授業の全体の概要] 教育学的現代社会論的アプローチ、保育教育実践的アプローチ、歴史的文化的アプローチ、により、多面的にこどもの歴史、現状、未来を概観する。また将来、保育士の免許・資格を得る人のための基礎的な知見とするようにしたい。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] こどもの心理、またこどものあり方の幅の広がりを理解する。特に、歴史や文化による違いが説明できることを到達目標とする。現代社会のこどもの処遇やその保育・教育を含めた支援のあり方とポイントを知ること、こどもの心理について、多様な学問が集まって作っている研究分野の概要から、こどもの心理研究の仕方についての基礎が説明できるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] - こどもの心理概説 こどもという存在について、成人と比較する - 教育学的現代社会論的アプローチ①現代社会の特徴を人類史の中で考える - 教育学的現代社会論的アプローチ②現代社会の特徴を子育て、恋愛、男女関係、家族等から考える - 教育学的現代社会論的アプローチ③現代社会において教育・育児の新たな課題は何かを考える - 教育学的現代社会論的アプローチ④こどもの心理を知ることが現代の教育・育児の課題にどう応えられるか考える - 保育教育実践的アプローチ①保育所の様子を1・2歳児の保育の場面から知る - 保育教育実践的アプローチ②こども園の様子を3・4・5歳児のこども園における成長の姿から知る - 保育教育実践的アプローチ③保育所の保育の一つの最後の段階として「協同的な学びの活動」を検討する - 保育教育実践的アプローチ④幼児教育と小学校教育の連携・接続を紹介し現代の新たな課題について学ぶ - 保育教育実践的アプローチ⑤小学校の授業について実際の場面を検討しつつ要点を学ぶ - 歴史的文化的アプローチ①<子ども>とは何者か—存在としての子どもと概念としての子ども— - 歴史的文化的アプローチ②歴史のなかの子どもを探る—子どもの誕生と生育をめぐって— - 歴史的文化的アプローチ③社会のなかの子どもを探る—子どもの遊び、学習、労働をめぐって— - 歴史的文化的アプローチ④文化のなかの子どもを探る—子どもの想像力と創造性— - 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] こどもと関わる人のための心理学			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			